

## 国立大学法人東京芸術大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

### 1 全体評価

東京芸術大学は、我国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命として教育研究と社会連携活動を推進している。第2期中期目標期間においては、国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、地域や企業等との連携・交流を通じた実践的な教育研究を展開するとともにウィーン音楽演劇大学との共同プロジェクトの実施や「藝大アーツ・サミット 2012 アジアから世界へ - 連携と共生 - 」を開催するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### (戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、実技を伴う芸術分野の大学院博士課程における学位授与の在り方の明確化を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成24年度においては、実技と論文との関係性の一定モデルとして「藝大プログラム」を提案し、国内外の専門家のレビューを踏まえ、「芸術実践領域(実技系)博士プログラム」を取りまとめている。

### 2 項目別評価

#### ・業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

( 組織運営の改善、 事務等の効率化・合理化 )

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

( 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加及び資産の運用管理の改善、経費の抑制 )

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

長期的・安定的な財政基盤を整備し、さらなる教育研究活動及び社会連携活動、芸術文化の振興等に資するため、創立125周年(平成24年10月4日)を契機として、創立150周年(平成49年)までに250億円の獲得を目標とする「東京芸術大学基金(藝大基金)」を設置している。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

( 評価の充実、 情報公開や情報発信等の推進 )

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

社会との新たな出会いの場として設けている藝大アートプラザでは、研究室主催の企画展や大学美術館開催の展覧会と連携した展示、全学生を対象としたアートコンペ入賞者による「藝大アートプラザ大賞入賞作品展」を開催するなど、学生の創作活動の一端を学外に発信しており、平成 24 年度の総入館者数は、約 7 万 3,000 人 (対前年度比約 1 万 5,000 人増) となっている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

( 施設設備の整備・活用等及び安全管理、 法令遵守 )

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

**【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

## ・教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

東京都台東区、墨田区と連携した「GTS 観光アートプロジェクト」において、社会との関係性、表現の多様性、地域への貢献を研究テーマに、大学院生を中心とした美術作品の展覧会や演奏会等のイベントを開催（プロジェクト期間（平成 22 年度から平成 24 年度）の 3 年間で合計 17 回）するなど、研究室の枠を越えた教員との協働による複合的教育の実践を展開している。

卒業生・修了生支援の一環として、茨城県取手校地の環境を活用し若手芸術家のために創作アトリエを提供するとともに、学生と地域住民等との芸術交流活動等の拠点形成及び我が国における芸術文化の振興等に資することを目的として、「東京芸術大学アートヴィレッジ」を設置している。

ウィーン音楽演劇大学との 4 年間の共同プロジェクトの成果として、両大学の現役学生や卒業生（延べ 150 人程度）が演奏し、音楽学部音響学の担当教員がトーンマイスターとして全曲に立ち会い録音した CD「haydn total」を制作し、藝大出版会よりリリースしている。

芸術文化資料のアーカイブ化や研究者等の相互交流、人材育成等についての連携及び研究協力を推進することにより、芸術教育の発展と芸術文化の振興に資するため、財団法人東洋文庫と連携及び研究協力に関する協定書を取り交わしている。

芸術が障害者に夢を与える社会の在り方について考察するため、「藝大アーツ・スペシャル 2012 障がいとアーツ～共に生きる～」を開催し、日韓の障害のある若者を中心とした演奏会や「障がい者から学ぶアート」をテーマとしたワークショップ等を行っている。

「藝大アーツ・サミット 2012 アジアから世界へ - 連携と共生 - 」を開催し、8 カ国 1 地域から合計 23 大学の学長等を招き、「藝大アーツ・サミット 2012 宣言」を行うなど、アジアにおける芸術研究の拠点大学となるべく、交流プロジェクトを実施している。

学生同士の交流を深め、国際的視野を広めること、教育情報の共有化を図ること、さらには日中韓のアニメーション分野の人的ネットワーク形成を目的として、韓国芸術総合学校映像院、中国伝媒大学の学生と共同でアニメーションの制作を実施している。